

1 学校教育目標

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく考え自ら学ぶ生徒 | 2 正しく判断し実行する人 |
| 3 礼儀正しく情操豊かな人 | 4 心身ともに健康な人 |

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 生徒と教職員が共に誇りをもち、保護者・地域から信頼され、夢と希望を育む学校 ・「夢を実現できる生徒」を育む学校 ・「健康で自律心や規範意識を身につけた人間性豊かな生徒」を育てる学校
○児童・生徒像	○ 総合的な人間力のある魅力ある生徒 ・自ら学ぶ生徒 ・思いやりの心をもち、社会に貢献できる生徒 ・豊かな情操と体力を育み、心身ともに健康な生徒
○教師像	○教育のプロとしての自覚があり、誇りと情熱をもつ教職員 ・実践力、指導力のある教職員 ・信頼され教職員 ・情熱のある教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>
 落ち着いた学校生活を送っている。新型コロナウイルスの感染防止対策に注力しつつ、500名を超える生徒と全教職員が一体となって取り組む行事の良さを維持すべく工夫・努力している。落ち着いた雰囲気です授業が行われ、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて邁進している。

<前年度の成果と課題>
 成果： 新型コロナウイルス感染拡大が続く中、学力向上の取組や多くの学校行事が制約を受けることになった。思うような教育活動ができないことへの苛立ちもあったが、教職員の団結と献身的な努力、生徒の頑張りによってマイナス面を最小限度にとどめることができた。特に学習面で多くの指標が上昇傾向にあり学力向上の道筋が見えてきたこと、Zoom等のICT機器の活用が飛躍的に広がったこと、文化祭の代替行事として行った「ビデオ・展示鑑賞会」が様々な工夫により生徒に大きな達成感をもたらすことができたこと等が成果である。

課題： 今年度は新学習指導要領全面実施の年となる。昨年度はその準備最終年度であり、その研究・準備に努めた。今後も形成的評価による計画の見直し等を含め、よりよい教育活動実施に向けて取り組んでいく必要がある。また、新型コロナウイルスの感染状況が見通せない中、少しでも本校の特色ある教育活動が実現するように工夫・努力を重ねていくことも大きな課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	秩序と活力のある学校生活の構築	○	○	○	○	○
3	小中連携活動の充実と教員の授業力向上	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標正答率・通過率)		実施結果 (正答率・通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「授業が楽しい」「授業がわかりやすい」という生徒の増加 令和4年度区学力調査の結果、学力での自己肯定感を高める。		授業が楽しい、わかりやすいという生徒の割合 80% 年度末到達度調査正答率 60% 令和4年度区学力調査通過率 60%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善・授業力向上	全教科担当	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が年2回、指導案を全教員に配布して公開授業を行う。 授業後に管理職等と共に授業改善に向けた協議の場を設ける。 小中連携活動の中で共通の指導案での授業公開・研究授業を行う。 週案にコメントを書き、教員の授業改善への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業アンケート年間3回 	<ul style="list-style-type: none"> 6項目のアンケートすべてについて、肯定的回答の上昇(80%以上) 			
2 継続	放課後補充	全学年 全生徒 英語・数学	毎日 ※行事 重点取 組期間 等を除く	【指導体制】 学年担当教員 【取組内容、ねらい・目的】 教材等を使い、生徒に学習内容の定着を図る。各教科で確認テストを実施する。確認テストの結果によって個別指導を行う 【使用教材】 教材(英、数)	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で進度等を考慮して確認テストを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストで目標点を超えない生徒に家庭学習課題を与える 上記学習課題提出率100% 		自己評価の際に記入	

3 新規	I C T 機器の活用	全学年 全生徒 5教科中心	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5教科を中心に、 ①教員が I C T 機器を活用して授業を行う。 ②生徒の I C T 機器使用場面を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の授業アンケート ②自己申告面接 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答 80%以上 ②生徒に使用させる教員の割合上昇 			
4 継続	サマースクール (基礎コース)	全学年 国語・数学・英語 目標値未満 各学年約 30名程度を募集	夏休み 期間中の 7日 各日 50分	<p>【指導体制】 教科担任 1名 + 学年サポートメンバー 1名</p> <p>【取組内容、ねらい・目的】 当該年度の前半期の内容でつまずきおよび学力調査の目標正答率が高い問題で、本校の生徒の達成率が低い問題の未定着を解消する。T1が問題の説明を行い、T2が机間指導をすることで解消を図る。</p> <p>【使用教材】プリント教材</p>	サマースクール終了後、確認テストおよび定期テストで確認	夏休み終了後の確認テストで全員の正答率を 20%の上昇できなかった場合、冬休みの宿題でもう一度勉強し直す。		自己評価の際に記入	
5 継続	家庭学習の習慣化	全学年 全員 英・数	各教科 週 1回 3 か月間	<p>【取組内容、ねらい・目的】 毎日 2 ページの家庭学習ノートを提出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の振り返りを基に学習方法を提示する ・ 週 2 回分の学習内容を区 <p>学力調査の正答率の低い問題が定着するような内容に限定する。</p>	宿題提出状況調査	全学年宿題提出率を 80%にする			
6 継続	1 年間の総復習	1, 2 年 全員 5教科	2月 ～ 4月	<p>【取組内容・ねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習確認テスト等を行い、学習内容の定着度を確認し、定着度の低い問題を授業で解説し、春休みの宿題で確認 ・ 必要があれば春休みに個別指導を行う。 	宿題提出状況調査	全員の宿題提出率を 100%			

重点的な取組事項－２		秩序と活力のある学校生活の構築			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価 90%以上を維持する。	「学校が楽しい」と回答する生徒の割合 90%以上		自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
達成感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での達成感を得る。	全校生徒から自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。			
人権に配慮した個別指導	いじめ質問紙調査(年3回)、個別面談(年3回)を実施する。	・得た情報をもとに、即時組織対応する。		自己評価の際に記入	
不登校生徒への対応	不登校出現率6%以内にする。	・教育相談部会で個に応じた対応を検討し指導に生かし組織的に対応する。			

重点的な取組事項－３		小中連携活動の充実と教員の授業力向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
小中教員の合同研修会や研究授業により、授業規律・新学習指導要領にそった授業等を含む教育活動委について理解を深め、授業力・生徒指導力の向上につなげる。	年間6回、全教員が参加して小中連携活動を実施 小中1回ずつ指導案検討・研究授業・研究協議を実施		自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
合同研修会と研究授業	年間計画により合同研修会を2回、指導案検討・研究授業を4回実施	・小中の管理職と小中連携担当者により連絡・調整を前年度に行い年間計画により実施 ・講師を招いての教科指導法や新学習指導要領等の研修も実施		自己評価の際に記入	

指導案の共通化	研究授業に際し、連携の視点等の共通項目を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ・共通項目について、前年度中に検討し、今年度より指導案に設定する ・すべての研究授業で上記の共通項目を入れた指導案を作成・配布する 			
---------	--------------------------	--	--	--	--

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）